

岩国国際デーについての提案

アジア共同行動日本連絡会議

[趣旨]

岩国基地の大規模な強化に反対し、これとたたかう現地の人々への連帯を表明するために、8月21日を岩国民衆のための国際デーとし、アジア太平洋および世界の各地で連携した取り組みを行うことを提案する。

[背景]

日本の山口県岩国市にある米海兵隊岩国基地は、2005年以來の「在日米軍再編計画」の一環として、また、米国のアジア太平洋地域に向けた「再均衡」戦略のもとで、現在、集中的に強化されようとしている。その内容は以下のようなものである。

- a) 神奈川県の厚木基地からの空母艦載機 59 機の移転
- b) 厚木基地から移転してくる米軍人とその家族のための愛宕山（基地の外）での大規模な米軍住宅施設の建設
- c) 沖縄の普天間基地に新たに配備された MV22 オスプレイの全国飛行訓練等での運用拠点化
- d) 沖縄の普天間基地からの KC130 輸送機の移転
- e) 2017 年までの F35 ステルス戦闘機の配備

すでに完了した基地の拡張と上述のような機能強化によって、米国は岩国基地を 120 機の戦闘機が所属する北東アジア最大規模の米軍基地に変えようとしている。日本政府はそれを政治的・財政的に大きく支えている。

岩国基地はまた、在韓米軍基地を除いては、朝鮮半島の最も近くに位置する米軍基地であり、米日帝国主義の朝鮮民主主義人民共和国に対する侵略戦争策動の最前線を担っている。

2006 年 3 月 12 日の住民投票において、過半数以上の岩国の人々が、基地強化に反対する意思をはっきりと表明した。2007 年 12 月 1 日には基地強化への怒りを表明する 1 万人集会が開催された。2010 年 8 月 21 日からは、米軍住宅の建設予定地である愛宕山で、近隣住民らによってこの計画の撤回を求める定例の「愛宕山見守りの集い」が開始され、その回数はすでに 120 回を超えた。

しかし、米日政府は、このような現地の住民の意思と持続したたたかいは無視し、岩国基地の飛躍的強化を推進しようとしている。

[提案の目的]

この提案の目的は、岩国基地強化計画への国際的な関心を高め、抵抗する住民に対する国際的な支援と連帯を組織することで、粘り強くたたかう岩国の人々を激励することにある。

このために、現地の住民の持続的な抵抗を象徴する「愛宕山見守りの集い」が開始された 8 月 21 日を岩国民衆のための国際デーとし、各国・地域で実行可能な取り組みを行うことを私たちは提案・要請する。

[取り組みの具体例]

岩国の人々への連帯と激励を示すために、例えば次のような取り組みが考えられる。

- ・岩国の人々への連帯メッセージの送付
- ・岩国の人々に連帯する認証ショット・キャンペーンへの参加
- ・岩国基地強化の問題をアピールする写真展等の開催
- ・各国・地域での米大使館・関係施設への申し入れや行動など

岩国基地はアジア太平洋地域において最も集中的・飛躍的に強化されようとしている米軍基地のひとつであり、これに反対する民衆のたたかいへの各国・地域の同志たちの引き続き注目と支援・連帯を要請します。